

会計理論学会 第37回全国大会  
統一論題報告「会計はどのように社会を創造するのか」

# 会計の起源と近代資本主義社会形成 への新たな視点

2022年10月1日

大東文化大学経営研究所 客員研究員

橋本 寿哉

## 本報告の趣旨

- ▶ 統一論題「会計はどのように社会を創造するのか」を歴史的に考察
- ▶ 「会計はどのように生成し、どのように近代資本主義社会を形成したのか」を新たな視点から捉えることを試みる
- ▶ 会計の起源に遡ってその成り立ちを知ることにより、会計と社会のあるべき関係、これからの会計のあるべき姿についての手がかりを得たい

2

## 本報告の構成

- I. 報告の概要
- II. 西欧における伝統的な商業観とその転換  
    –トマス・アキナスの経済思想– (13世紀)
- III. 神と正義と記録と計算  
    –商人たちの実践と意識– (14世紀～15世紀中葉)
- IV. 「パチョーリ簿記論」の真意と  
    複式簿記生成の社会的意義 (15世紀末以降)
- V. 総括

3

## I. 報告の概要

- ▶ 今日の世界の会計の基礎にある複式簿記は、中世後期イタリアにおいて生成
- ▶ 一般に、複式簿記生成をもって「**会計の起源**」とされる
- ▶ 複式簿記は、資本主義の発達に大きく貢献（リバルト等）
- ▶ **会計の起源から近代資本主義社会が形成されるまでの歴史**は、一貫して**近代的な合理性**に基づくとする見方が通説
- ▶ 果たして、合理性だけに基づいていたのか？
  - ➔ 当時の**経済思想**や**商人たちの意識**の面から捉え直す

4

## Ⅱ. 西欧における伝統的な商業観とその転換 —トマス・アキナスの経済思想— (13世紀)

- ▶ 西欧キリスト教社会では、伝統的に商業活動は卑しく穢れた行為とされ、商人は蔑まれてきた
- ▶ 11世紀に開始された十字軍の遠征以降、商業活動の活発化により、従来の商業観は現実にそぐわないものへ



スコラ哲学の完成者**トマス・アキナス** (c.1225-1274)  
が従来の商業観を大きく転換



### トマス・アキナスの経済思想 (1)

- ▶ **財産の私有を容認**
  - 近代的私有財産制の起源?
- ▶ **あらゆる取引は「公正価格」で行われるべき**
  - 公正価格は市場価格? 公正価値論の先駆け?

**トマスの思想は、近代資本主義思想の萌芽なのか?**

トマスの思想は、  
社会における個と共同体の正しい秩序の考えに基づく → 「正義」

## トマス・アキナスの経済思想（2）

### ▶ 「節度ある利益」の容認

労働、危険負担に対する正当な対価として商業利得を正当化

### ▶ 「ウズーラ」の新解釈

- 損害の補償としての徴利を容認
- 事業投資による利益分配も、ソキエタス（共同企業）の兄弟的結社としての性格から容認、推奨

トマスの思想は、金銭貸借を含む商業活動のその後の本格的活発化を促進  
しかし、あくまでもキリスト教理念に合致した「正義」に基づく思想

## トマス・アキナスの「正義」の概念

### ◆ 一般的（法的）正義 (iustitia generalis)

共通善へと人間を直接的に秩序づける徳

### ◆ 特殊正義 (iustitia particularis)

特定の善に関して人間を直接的に秩序づける徳

#### □ 分配的正義 (iustitia distributiva)

共同体の財は人格と高貴さに応じて比例的に分配されるべきである

#### □ 交換的正义 (iustitia commutativa)

交換関係を維持するために、交換される財の価値は均等に保たれるべきである

### Ⅲ. 神と正義と記録と計算

—商人たちの実践と意識—（14世紀～15世紀中葉）

- ▶ トマスの貢献により、商業活動の正当性が認められるようになっていく → 社会に浸透するまでに相当の時間
- ▶ 商人たちの間では、商業取引が繰り返し行われる中で、合理性の意識が芽生える → **“ragione”**
- ▶ 一方で、商人たちは自らの行いの正当性に自信がもてず、地獄に堕ちる怖れを抱きながら活動を続けた

9

#### 記録への執着：「物書き商人」

- ▶ 商人たちは、あらゆる事項を記録に残した **日記、年代記、覚書帳、そして会計帳簿**
- ▶ 将来の紛争を防止しようとする文書主義の理念？
- ▶ 公的な場で使用されることのない記録までも、  
正確、詳細に秩序立てて記録



商人たちは、卑しいとされる商業活動に携わったことに向けられる神の怒りに対して怖れを感じていた



自らの行いの一つ一つが、正義に基づく公正なものであったことを示そうとしたのではないか

## 会計帳簿冒頭の神への祈祷文

- † 父なる神、彼の最も聖なる息子イエス・キリスト、そして精霊の名において。アーメン。そして、神が我々と本帳簿が記録の対象とするすべての者に与え給う**利益**と幸運と善の増大の名において。（バルディ商会『秘密帳簿』1310年）
- † 神と祝せられた処女聖母マリア、伝道者たる洗礼者聖ヨハネ及び天国のすべての聖人・聖女の名において。彼らは、聖なる憐みと慈悲により、我らの魂と肉体を救済するため、良きペルソナと**利益**を増大させ、聖なる長き良き生命の恵みを与え給う。（ジロラーミ=コルビッツィ商会『朱帳』1332年）
- † 魂と肉体を救うために、良き事、良き言葉、そして**利益**の恵みを与え給う神と処女聖母マリア、天国のすべての聖人・聖女及び天の法廷の名において。（コヴォーニ商会『黄帳』1336年）

11

## 会計帳簿：神に捧げられた記録と計算

### 《記録》

- ▶ 帳簿の各フォーリオにも、年号と簡単な祈祷文
- ▶ 取引の一つ一つを公証人文書の形式に倣い記録  
→ 帳簿記録が真実であり客観的で公正であることを証明

### 《計算》

- ▶ 共同企業結成期間満了時あるいは一定期間ごとに決算
- ▶ 「**ビランチオ(bilancio)**」作成を通じて期間利益を算定
- ▶ 資産と負債を明確に分類、純資産の増加額が利益
- ▶ 利益は「神が与え給うたもの」→ **暴利を貪っていない**

12



## 慈善の意識：「神の勘定」

- ▶ 14世紀以降、利益を慈善のために分配することが一般化
- ▶ バルディ商会（1312年結成）

ドメネッディオ氏勘定（Conto di messer Domeneddio）の設定

→ **「神の勘定」** 神からの出資及び利益分配・損失負担

すべてを分かち合う兄弟的結社としての考えを計算において実践

## 損失に対する恐れ

- ▶ 定期的な決算を行うコンパニーアで変則的な決算→ **損失回避**  
アルベルティ商会（1304～29年）、ダティーニ商会（1382～1410年）
- ▶ 神に祝福されるのであれば「節度ある利益」、多額の損失は神の怒り  
できうる限り算定される損失額を小さく抑えたいとする心理

## 罪の意識・贖罪観念と計算の強化

- ▶ 1340年代：3大商社の破綻、黒死病の流行 → **神の怒りへの恐れ**
- ▶ それでも、商業活動は、地域間取引拡大により活発化  
→ 為替手形の発行による差益等により利益は驚くほど増大
- ▶ 「ウズーラ」と疑われる取引の利益による **罪の意識**  
→ 計算をますます強化して正義を証明  
→ **14世紀末までに体系化された複式簿記が遂に完成！**
- ▶ **贖罪観念** → 得られた利益を社会に還元
- ▶ 個人としても「神の勘定」を設けて記録

## IV. 「パチョーリ簿記論」の真意と 複式簿記生成の社会的意義（15世紀末以降）

### ▶ ルカ・パチョーリ『算術、幾何、比及び比例全書（スンマ）』

1494年 ヴェネツィアで刊行

複式簿記を初めて体系的に論述

→パチョーリは「近代会計の父」

第1部第9編第12論文「計算及び記録に関する詳説」＝簿記論

### ▶ パチョーリは数学者であり、フランシスコ派修道僧

世界は数字、比、幾何学形式によって作られている

神が世界を作り上げるのに用いた言語が数学



15

## 「パチョーリ簿記論」の内容

- ▶ 複式簿記に関する技術的な解説だけでなく、  
商人たちへの助言や倫理的な教えが数多く含まれる

## パチョーリの真意

- ▶ パチョーリは、複式簿記を論じることを通じて、  
神が是認する商人のあるべき姿を示そうとした
- 商業活動は、社会をより良くする神へ捧げられた秩序ある生活の一部
- 商人には、人びとの必要なものを提供することにより公共の福祉の向上を図る責任→利益をあげ商売を維持し続けられる商人にしかできない
- 利益は商人たちが責務を完了させたことの副産物にすぎない
- パチョーリは「会計倫理の父」と呼びうる

16

## レトリックとしての複式簿記

- ▶ 複式簿記を用いた貸借二面的な取引の記録
  - 取引の均衡性、公正性、商人の誠実さを証明
- ▶ 複式簿記によって記録された会計帳簿
  - 商業活動の正当性を証明
  - 商業活動を行う共同企業の正当性も証明
- ▶ **修辞的な力**によってこそ、複式簿記は採用・普及
- ▶ 「パチョーリ簿記論」はそうした流れを決定づけた

17

## 複式簿記生成の社会的意義

- ▶ 「パチョーリ簿記論」によって、複式簿記は広く共有される社会的な知的技術に → **「複式簿記の生成」**であり**「会計の起源」**
- ▶ 複式簿記は、キリスト教理念に基づく理想的な社会を実現するためのもの



複式簿記は、すべての商人たちに正直で誠実な活動を促し、取引が公正におこなわれるように行動を変化させた



**取引が公正に秩序立てて行われる経済活動が活発化  
近代資本主義社会の重要な基礎を形成**

## V. 総括

- ▶ 複式簿記は、合理性の意識に基づきながらも、キリスト教理念に合致した正義の思想や神への恐れ等に基づき、理想的な社会を実現するためのものとして生成
- ▶ 複式簿記を通じて、商人たちは誠実な行動、公正な取引を遂行  
→近代資本主義社会の重要な基礎を形成
- ▶ 資本主義の本格的発達過程においても複式簿記（会計）は重要な役割、しかしながら、会計の**効用部分**だけが注目される  
→利益獲得の過程を跡付け、利益追求の仕組みを明らかにし、営利企業の利潤最大化を促進、自由競争に基づくダイナミックな資本主義の発展を後押し

19

- ▶ 会計生成当初の理念は忘れ去られ、会計と社会一般との関係性が希薄に
- ▶ 会計は、経済社会を機能させるためのニュートラルな道具に
- ▶ 今日の合理性、効率性に基づいた会計観が確立

**会計の成り立ちに立ち返り、社会との関係という広い視野から、今日の会計のあり方を見直し、再定義することが求められる**



20